

「コレクション展 2017・春」

群像
交錯す
る声

開館時間：午前九時三〇分～午後五時まで（入館は午後四時三〇分まで）
休館日：月曜日（三月二〇日（月・祝）は開館し、翌三月二二（火）休館）**会場**：和歌山県立近代美術館 一階展示室
主催：和歌山県立近代美術館 **観覧料**：「コレクション展 二〇一七・春」と共通 一般三四〇（二七〇）円、大学生二二〇（一八〇）円 *（内は二〇名以上の団体料金） * 高校生以下、六五歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 * 毎月第四土曜日（二月二八日、二月二五日、三月二五日、四月二二日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

2017.1.27 (金) - 5.7 (日)

和歌山県立近代美術館



吉田 克朗《Work 9》1970年 シルクスクリーン、紙

人間社会に生きる私たちは、他者との多様な関係性の中で暮らしています。家庭、学校、会社など、特定のコミュニティに属することもあれば、不特定多数が行き交う街中などに身を置くこともあるでしょう。そこでは群像劇ともいべき様々な人間ドラマが日々展開されています。

日本では、明治33(1900年)にフランスの心理学者ギュスターヴ・ボンの著書『群衆心理』が紹介されてから、個人とは異なる群衆特有の心理状態に注目が集まります。また、明治期から大正期にかけて、多数の人々を複雑な構図に収めた写実的な西洋絵画が美術雑誌や美術学校における講義等で取り上げられるにつれ、群像の構図や表現についても深く研究されるようになりました。

何人もの人々をひとつの画面に収め、高い構図力が問われる群像表現では、各人物の配置、表情や動きなどの描写に、それぞれの個性や互いの関係性を見ることができます。注意深く見れば、描かれた一人一人の心の声が聞こえてきそうです。画中にひしめく彼らの声は、人生の喜怒哀楽をうたい上げ、社会の中で人が生きることについて、深く考えさせてくれるでしょう。

ここでは、石垣栄太郎《街》(1925年)や高井貞二《エミгранトの街》(1940年)のように街中の喧噪と当時の社会状況を描写した作品、野長瀬晩花《夕日に帰る漁夫 下絵》(1920年)や川口軌外《夏の海》(1940年)など、複数の人体を組み合わせて構図を研究した作品のほか、村井正誠《ならぶ人々》(1975年)や宇佐美圭司《山々は難破した船に似て No.2》(2001年)など、人々の姿を抽象化した作品も展示します。これらを通じて、時代とともに変化する人間のあり方をご覧ください。



石垣 栄太郎《街》1925年



村井 正誠《ならぶ人々》1975年



川西 英《神戸十二月月風景 四月須磨桜花》1931年

和歌山県立近代美術館

THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14 (和歌山城の南、県庁前交差点すぐ)
tel.073-436-8690 fax.073-436-1337 <http://www.momaw.jp>

【交通のご案内】 ◎ JR和歌山駅から：バス(2番乗り場)で約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ◎ 南海電鉄和歌山市駅から：徒歩15分／バス(9番乗り場〈15・73・273系統を除く〉)で約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ◎ 南海電鉄難波駅から和歌山市駅まで、特急で約1時間 ◎ JR新大阪駅からJR和歌山駅まで、特急で約1時間



川口 軌外《夏の海》1940年



福沢 一郎《鬼も忙し地獄の整地》1974年

● 関連イベント

フロアレクチャー (担当学芸員による展示解説)

【日時】1月28日(土)、2月19日(日)、3月20日(月・祝)、4月16日(日)、5月6日(土)

いずれも午後2時より、展示室にて(※申込不要、要観覧券)

こども美術館部 (小学生向け鑑賞会)

【日時】4月22日(土)

午後2時より、展示室にて(※当日開始時間までに要受付)

● 同時期開催の展覧会

企画展 泉茂 ハンサムな絵のつくりかた

【会期】2017年1月27日(金)～3月26日(日)

【会場】2階展示室

企画展 現代版画の展開 (仮)

【会期】2017年4月8日(土)～6月25日(日)

【会場】2階展示室

